

IOSCO は、IFRS 財団の下に国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）を設置するビジョンに強い支持を認識

証券発行者のサステナビリティに関連した情報開示に関する活動を支援するため、証券監督者国際機構（IOSCO）のサステナブルファイナンス・タスクフォース（STF）は、2021年4月26日と5月7日に、2つのラウンドテーブルを開催した。後者は、世界経済フォーラム（WEF）との共同開催である。その目的は、サステナビリティに関する情報開示の信頼性、比較可能性、一貫性を高めるための IOSCO の優先事項について、世界中のステークホルダーと建設的な対話を行い、情報開示のためのグローバルなシステム・アーキテクチャーの実現に向けた意見を収集することであった。

ラウンドテーブルには、IOSCO STF 加盟国管轄区域の国際機関や多国間組織、サステナビリティ報告機関、グローバルなアセットマネジャーやその他の資本市場参加者、発行者、会計事務所や会計専門家、IFRS 財団、IOSCO 加盟国の当局など、幅広いステークホルダーのシニアレベルの代表者が参加した。

参加者は、サステナビリティ報告に必要とされる緊急の改善を実現するためには、このペースを継続し、これまでのモメンタムを維持することが重要であると強調した。2つのセッションでは、IFRS 財団の下に国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）を設立するための IOSCO のビジョンにおける主要な要素に強い支持が集まった。そして、このビジョンを達成するため、全てのステークホルダーの参加者から、IOSCO 及び IFRS 財団が協同することに対して強い支持があった。また、ISSB は、既存の取り組みを強化することによって、資本市場参加者の優先的なニーズに対応する高品質なサステナビリティ関連の国際報告基準を合理的なタイム・フレームで提供することができるという点でも、幅広い合意が得られた。

ラウンドテーブルの参加者は、クロスボーダーでの提供や国内レベルでのサステナビリティ報告要件の設定に ISSB 基準を使用することをメンバーに推奨する前に、IOSCO が検討すべきいくつかの重要な事項を指摘した。IOSCO はこれらの詳細なフィードバックを考慮する。

2つのセッションを通して、IOSCO は、以下3つの主要な論点について、ステークホルダーから意見やフィードバックを収集した。

- (i) 主要なサステナビリティ報告機関の既存のコンテンツと気候関連財務開示タスクフォース（TCFD）の提言に基づいて、企業価値の観点から投資家志向の基準を開発するために、ISSB がどのようにスタートを切るのが最善であるか。
- (ii) ISSB 基準の導入を加速させ、サステナビリティに関連する義務的な開示について一貫性のある比較可能なアプローチのベースラインとして各法域で採用されるための明確な道筋を設定する方法。
- (iii) ISSB 基準を世界共通のベースラインとし、他のステークホルダーの要求や法域固有の開示要件を満たす補完的な基準との効果的な相互運用性を確保するビルディングブロック・アプローチを実際にど

のように実現するか。

ラウンドテーブルでの主なメッセージとしては以下の通り。

- ラウンドテーブルの参加者は、サステナビリティに関する情報開示の比較可能性を促進し、市場の分断を避けるためのグローバルに整合性のある報告基準を支持することで一致した。多くの参加者は、任意の開示だけでは十分ではないと強調し、監査と保証のための強固なフレームワークと共に、開示の義務化に向けた明確な道筋を支持した。
- サステナビリティ基準設定の主要5団体が開発し、2020年12月に公表された、気候関連の財務情報開示のプロトタイプを出発点とすることに強い支持があった。当該プロトタイプは、TCFD提言やその他の既存のコンテンツをベースにしている。ラウンドテーブルの参加者は、ISSBがグローバルに一貫性があり、比較可能なサステナビリティ関連の開示のための共通のベースラインとなる気候変動ファーストの報告基準を開発するにあたって、当該プロトタイプがその健全な基盤となることを同意した。一方で、参加者は、基準の適用範囲を早期により広範なサステナビリティのトピックにも拡大するための明確なロードマップを設定することが重要である旨強調した。
- 参加者は、新たに設置されたIOSCO技術的専門家グループ（TEG）が、IFRS財団技術的ワーキング・グループ（TWG）と緊密に協力しながら、プロトタイプの主要な特徴を評価する作業の重要性を指摘した。参加者から提案された優先的な重点分野は以下の通り。
 - 一貫性と比較可能性を促進するための定量的指標と標準化の重視
 - 将来予測指標の報告方法及びシナリオ分析の方法論の明確化
 - 主要な仮定の開示を含む、サステナビリティ報告書と財務諸表の間の強い連携の奨励
 - 業種によって自然資本、社会資本、人的資本への依存度は異なることから、業種固有の基準や評価指標の必要性
 - 電子的、機械的に読み取り可能なサステナビリティ関連報告書のタクソノミ開発によるデジタル化の推進
- また、参加者からのフィードバックでは、ビルディングブロック・アプローチに対応できる十分な柔軟性を備えたグローバル・アーキテクチャの必要性が強調された。ISSBに助言を与え、企業価値志向の基準という共通のベースラインを超えて拡張されるサステナビリティ報告基準との相互運用性を促進するために、IFRS財団の下にマルチステークホルダーの諮問委員会を設置するというIOSCOのビジョンに支持が集まった。一方で、参加者は、ISSBの諮問機関としての当該委員会の目的を明確にすると共に、当該委員会がその目的に沿った構造及びメンバー構成であることが重要である旨強調した。
- また、IFRS財団は、基準設定プロセスに情報を提供する既存の諮問グループを活用することが奨励された。このようにして、ISSBは、地域を超えたステークホルダーとの協議のためのチャンネルを含めた、既存の包括的で複数のステークホルダーによるデュー・プロセスの恩恵を享受する。重要なことは、提案されている諮問委員会は、既存の諮問グループやアウトリーチの仕組みに取って代わるものではなく、補完するものでなければならないということである。

- 最後に、ISSB 基準のデザインは、企業価値創造を超えた法域固有の要件との相互運用性だけでなく、気候変動以外の他のサステナビリティ・トピックへの適用範囲の拡大や、時とともに変化するサステナビリティ・トピックの重要性に対応するための継続的な基準の進化を可能にするものでなければならないと議論された。

IOSCO は、幅広い層からのシニアなステークホルダーの参加と、深度あるフィードバックに大いに感謝。これらの意見は、IOSCO から 6 月に発行予定である、発行体のサステナビリティ開示に関する報告書に反映される予定。

IOSCO の議長であり、香港証券先物委員会 (SFC) 長官である Ashley Alder は、次のように述べている。

「WEF 議長の Klaus Schwab 教授をはじめとするチームの皆様には、IOSCO の戦略的円卓会議の共同開催にあたり、多大なご協力をいただきましたことを感謝いたします。世界中のステークホルダーから寄せられた意見や、IFRS 財団の下でグローバルなサステナビリティ報告書の基準設定体制の確立に向けた IOSCO の戦略的ビジョンへの強い支持に、私たちは大いに勇気づけられました。IOSCO の技術的専門家グループは、IFRS 財団の技術的ワーキング・グループと密接に連携しながら、強化されたプロトタイプが利害関係者によって特定されたコンテンツのニーズを確実に提供し、ISSB によるグローバルスタンダードの開発のための健全な基盤として使用できるよう、今後数ヶ月間、全力を注ぐ予定です。」

IOSCO サステナブルファイナンス・タスクフォースの議長であり、スウェーデン金融監督庁長官である Erik Thedéen は、次のように述べている。

「IOSCO は、2021 年 11 月の COP26 までに ISSB を設立し、企業価値創造に焦点を当てた投資家志向のサステナビリティ関連開示基準のグローバルなベースラインを提供し、法域を超えて迅速に採用・義務化することを目指し、2021 年 11 月の COP26 までに ISSB を設立するための支援を大きく前進させています。これにより、必要とされているグローバルな一貫性が促進されます。我々は、提案されているビルディングブロック・アプローチの適切な実施を促進するために、主要な法域及び官民の他のステークホルダーとの関わりを継続していきます。」

(Note to the Editor は省略)

(以上)